

徒歩帰宅支援マップ (広域版)

この地図は、南海トラフ巨大地震などの大災害が発生し、公共交通機関が停止した場合に、徒歩で帰宅する方を案内するために作成しました。

この地図には、道路について記載してありますが、記載してある道路が安全であることを保証するものではありません。通行の際には、各自で安全に注意して通行してください。

大きな余震に備える

- ブロック塀や不安定な自動販売機などに近づかない。
- 窓ガラスや看板が破損して落ちてきそうな建物には近づかない。
- 地割れやがけ崩れの起こった道路には近づかない。
- 工事現場など危険な場所には近づかない。



もしものときの応急手当

● 止血の手当

ケガなどによる大出血時には、迅速かつ適切に止血しなければ命に関わることがあります。人間の全血液量は、体重1kg当たり約80mlで1/3以上失うと生命に危険があります。

● 直接圧迫止血法

出血部位(血の出ているところ)を確認し、厚く折りたたんだ清潔な布(ハンカチ、タオルなど)で出血部位を直接おおい、その上から手で数分間押さえる。大部分の出血はこの方法で止まります。

※感染防止のために、ビニール袋やビニール手袋などを使用し直接血液に触れないようにしましょう。



● 骨折の処置

骨折の症状：激しい痛みがある、変形がみられる、急激にはれてくる、皮膚の色が変わるなどです。(表面に傷がなくても骨折していることがあります。)

- 骨折していると思われる場合は、不用意に動かしてはいけません。
- 少しでも骨折の症状がみられたら固定します。
- 副木は2関節にわたるように固定します。
- 変形しているときも、そのままの状態固定します。
- 固定の順番は痛みの激しい部位の上下から。

※副木がない場合は固定する部位より長く幅があり、強度のあるものを代用します。例えば、かさ、野球のバット、重ねた新聞紙、棒、板などです。



● 熱傷(やけど)の処置

熱湯や火災などでの熱傷(やけど)

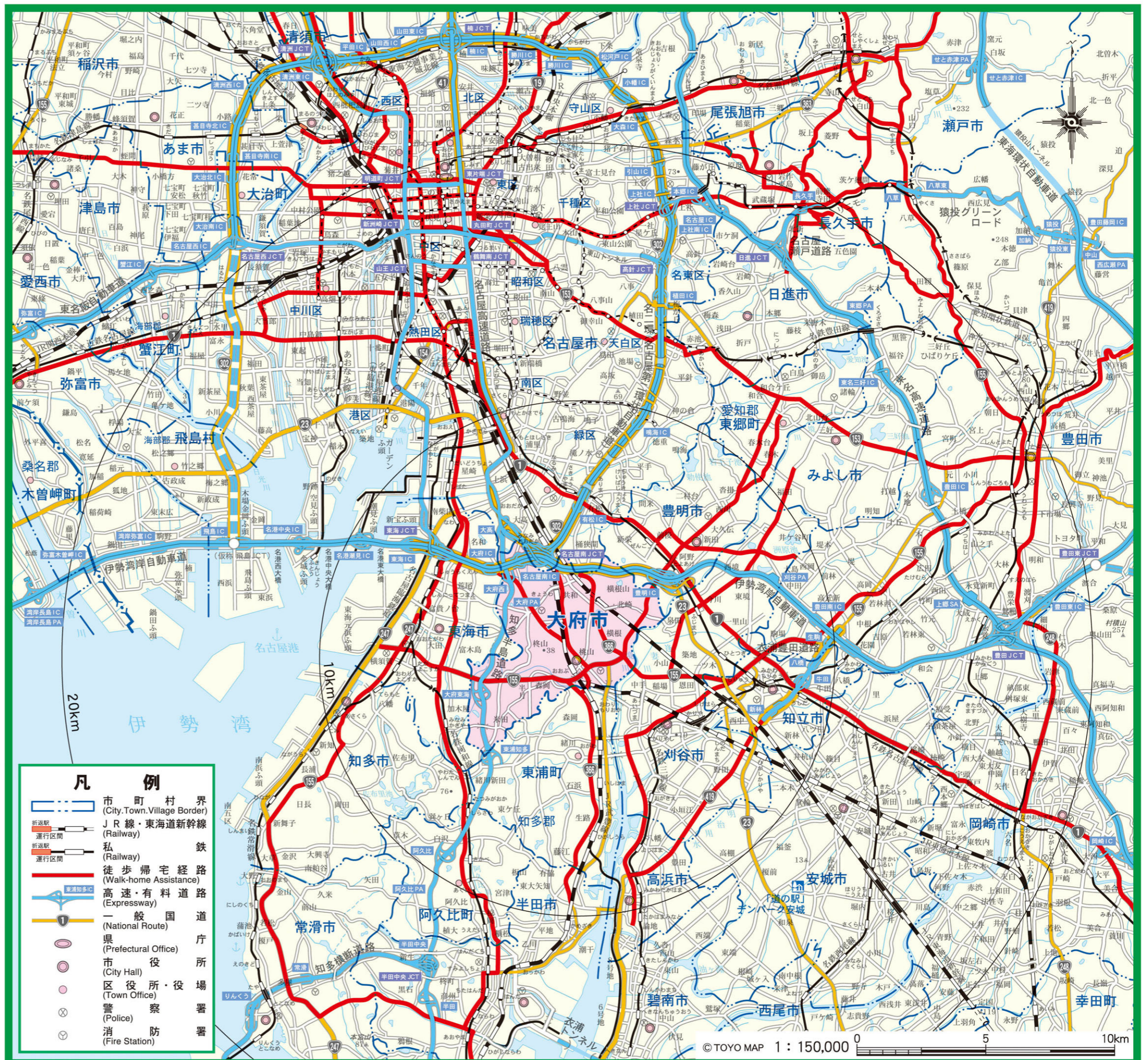
- 身につけているものを脱ぐ前にそっと上から水で冷やします。
- 衣服は無理にとらないで、はさみなどで切りとります。
- 水道水などきれいな水で十分冷やします。
- 何もぬらず、清潔なガーゼなどでおおいます。

※やけどの範囲が広いときは低体温症にならないように、冷やしすぎに注意します。



化学薬品での熱傷(やけど)

- 大量の水で洗い流します。
- 薬品のみこんだ衣服ははさみなどで切り、すばやく脱がせます。



「この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の20万分1地勢図を使用した。(承認番号 平 26 備使、第 167 号)」